

完成検査指摘事項	NF完成検査員															
	Sa 課長	Ka 課長	Ki 氏	Ta 主査	Ko 主査	Ma 主査	Sa 主査	Na 主査	DTA 主査	Hi 主査	Tomu 主査	COM 主査	Ki 主査	I 主査	Mi 主査	(武蔵野 R & D) Wa 主査
・完成検査手順書																
品質管理項目は試験項目の実施以外に、施工要領書の周知、現地調査の徹底等を記入すること			○													
工程概要の予定線は工期延伸があった場合は更改工程で記入する			○													
工程概要には完成月の工事があったこととすること				○												
・完成写真																
固定資産の記入項目は必ず入れること	○															
完成月の日付のものを最低1枚は入れること			○	○												
数量が多い場合、代表的なものをピックアップしてまとめること			○													
・産廃関連																
フロン工程管理表の所有者は課長名とすること							○									
産廃集計表を新書式(2018/10/25版)に変更すること											○					
委託契約書、処理業の許可証も完成書類に添付すること											○					
・現況図、保存図書																
現況図修正書、コムビルに東日本資産の工事がある場合は、機器表に「東日本」資産の明記をすること	○															
現況図の修正は工期内に終了させること											○					
・ガイドライン																
3次以降の下請が入る場合は事前に部長承認が必要となる為、ガイドライン及び施工体系図は工事着手前に監理者の確認が必要	○		○					○								
3次以降の下請に対しては理由書が必要					○											
・完成図書(打合せ議事録)																
課題管理表は未決・解決が分かる様に検討すること			○													
議事録は最終確認結果まで記入すること				○												
増減にかかわる変更内容については協議記録が必要					○											
監理者と代人との事前検討会(危険工程伝達)の議事録を作成すること													○			
・完成図書(施工計画書)																
工事を進める為の管理書類の作成時期、管理、教育方法等が分かる様にすること			○													
・完成図書(施工要領書)																
作業員に周知徹底し、記録を残すこと(周知方法を明確にする)			○													
専門業者(基礎)の施工要領・計画書及び自主検査報告書を作成させること			○				○									
包含工事(電気)分の施工計画書、要領書を作成する事				○												
・完成図書(施工図)																
基礎図や機器・架台・リコン配置等も施工図とみなすので作成すること			○													
・完成図書(試験成績書)																
中央監視サマリ画面での確認記録を残すこと		○														
試験項目は標準仕様書にのっとり実施する(排水は満水試験を行うこと)			○													
気密・水圧試験の圧力計は校正記録があるものを使用すること									○							○
圧力計の0点の確認写真を記録として残すこと。									○							
リニューアル工事の場合、風量測定記録は目標値とし判定は無しとする。									○							
サーモの校正記録又は正常性の確認をすること。									○							
更改工事の場合は更改前後の温湿度測定記録を残すこと									○							
増締めトルク基準をメーカーに確認し、トルクレンチ・ドライバー等で管理すること					○											
リプレイス機器の場合は撤去前に配線の絶縁、配管の漏れ確認を行うこと						○										
水圧、通水試験は実施箇所を平面図、系統図に明記(色分け)すること				○												
検査要領書に実際の試験実施方法及び判定基準を記入すること				○												
試験項目を事前に監理者と協議して決定すること									○							
・完成図書(工程写真)																
タッチアンドコールは必ず実施し、記録(写真)を残すこと。		○														
工程写真はIpad上で生データを見せてもらうだけでも良い。									○				○			
重点安全管理項目の実施確認状況を写真撮影し記録する事				○			○					○				
盤内絶縁養生状況の写真を添付すること												○				
事務室養生状況の写真を工程写真に入れること																○
・完成図書(防災監視従事者通知書)																
防災監視員届には監理者の確認(印・サイン)が必要														○		
・完成図書(危険工程チェックリスト)																
絞り込んだ内容の作業員の伝達方法を欄外に記入する事				○												
設計から送られてきたパソコンで作成すること(最新版2018.10)					○											
危険工程チェックリストは着工後速やかに作成し、監理者の確認を取る事									○							
・完成図書(作業計画書・手順書)																
標準作業手順書は本当に毎日チェックしているのか? 使用方法を検討すること			○													
搬入計画書にはクレーンの選定基準(旋回範囲、吊り荷重量等)を記入すること。									○							

完成検査指摘事項	NF完成検査員																
	Sa課長	Ka課長	Ki氏	Ta主査	Ko主査	Ma主査	Sa主査	Na主査	DATA主査	Hi主査	「ムウエア担当」 Ta課長	「COM担当」 Sa主査	(南関東) Ki主査	(北関東) I主査	(UDBS) Mi課長代理	(武蔵野R&D) Wa主査	
搬出入作業は「指揮者」「合図者」等のベストを着用し見得る化する(データビルの必須)									○								
資材の搬入、撤去機器の搬出チェックシートを作成すること							○										
・完成図書(防災協・施工体系)																	
施工体系図には監理者の確認(印・サイン)が必要													○	○			
・完成図書(緊急連絡表)																	
緊急連絡表は監理者が変更した時点で変更分を作成する事				○						○							
・完成図書(各種パトロール記録)																	
『火災報知器誤発報防止対策確認表』は工事範囲内に火報がない場合も作成すること。		○							○								
・完成図書(安全衛生協議会資料)																	
安全リエンションの資料に施工体系図を入れること													○				
『作業変更フロー図』をファイリングし、周知すること				○													
・完成図書(安全書類、点検表)																	
持込み機器類は点検の上、許可証を発行し管理簿にて管理する事			○									○					
電動工具の点検記録を作成し管理すること												○					
高齢者に対するチェックリストを作成すること(武蔵野通研仕様)																	○
・完成図書(その他)																	
エラー・レドカードは作業員の教育として勇気をもって発行すること			○														
ゼロ報シートは課長印の押印されたものを監理者からもらうこと							○										
・現場(MACS工事)																	
バテの落下防止は横向きも必要(NTT-Fの要領書を確認する事)			○														
VD風量調整後の目盛りに矢印を表示			○														
FMACS V (M) 室内機内部の冷媒立ち上がりのカバーを検討すること (LLはある)									○								
ストラクチャーからの支持は不可(協議記録が必要)							○										
新設ラックアースを既設のラックに接続している場合、既設ラックのボンドアースが取れているか確認する事			○														
吹出しチャンバーの内張りはパンチングメタルで押えること		○															
挟み金物に抜け防止金物を取り付けること							○										
・現場(事務空調更改工事)																	
天井点検口近傍の軽鉄切断端部を保護養生すること		○							○								
オーバーホールの実施を現地に記載する(ブーとベルトの交換の日付)									○								
業者が冷媒充填してる場合、充填量を記録に残すこと (ビル用マフ)									○								
不要吊ボルトを撤去すること (天井内)									○								
ドレンアップホースは頂点ではなく立上り部で支持する(振れ幅を確保する)		○							○								
室外機の防振ゴムは今後取付ける方向で設計に指示していく												○					